

同志社大・博士課程  
口・エンさん

留学生は元教師

# FOCUS

追いかける。大学生。

いくつになっても夢を追い続ける人がいる。28歳で中国から留学している口・エンさんはその一人だ。一度就いた教師という職業を捨ててまで学生に戻った彼はどんな思いを抱いているのだろうか。

## 父親の夢を手伝いたかった



中国人留学生の口・エンさん（同志社大大学院博士課程）28歳。高校教師という職を辞して日本に来た。中学高校で反日教育を受け、日本に対しては悪い印象を持っていたという。印象が変わったのは大学時代。父の経営する会社と取引する日本人の人物が良く、接していくうちに日本のイメージも変わったという。「彼は仕事観や人生観でとても深い考えを持っていました。尊敬できる人物です」という。

仕事を辞めてまで留学しようと思ったのは、父の夢を手伝うため。父の夢は日本と中国の貿易を仲介する会社の設立だ。父が年をとり、一人では夢を実現することが難しくなったという。日本との合弁会社を設立するにあたり、日本語と日本文化を学ぶのは必要不可欠だった。

日本人との交流から学べることは多い。しかし、戸惑うことも。「飲み会で仲良くなった人が、次の日には冷たい態度。こんなことがよくある。日本のノリは難しいですね」と嘆く。それでも「私は効率のいい勉強の仕方を知っていますね。教師として勉強を教えていましたからね」と笑顔で豪語する。2年という短い期間で、日本について学ぶには長い人生経験が生きたそう。

口さんが同志社を選んだのは、同志社が関西の有力大学として外国人にも有名だったから。社会学研究で有名な石田光男教授の元で学びたかったのも理由の一つだという。企業経営に必要なのは経済、経営、政治、全ての知識が必要であるという。さまざまな専門の教授が揃う同志社の総合政策科学研究科は魅力的だった。

就職先は父の会社の取引相手。これももちろん、合弁会社設立の夢の実現に向けた選択だ。「内定式は10月です。中国にはそんなものないですけどね」。日本文化に戸惑いながらも、夢の実現に向けて確実に歩みを進めていく。

（聞き手＝吉村亮介）

### UNN 関西学生報道連盟

FOCUSは

神戸大学ニューズネット委員会  
同志社大学 PRESS 編集部  
NEWS 立命通信社  
関西新月通信社  
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムズ編集部  
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部  
京都女子大学藤花通信編集部  
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです